

金融部門の深化と経済発展 —多国データを用いた実証分析—

慶應義塾大学 岡部 光明
日本銀行 光安 孝将

金融の大きな機能は、直接的には社会における資金の再配分であるが、より根本的にはそれを通じて社会発展に伴う多様なリスクを適切に配分することにある。このようなリスク再配分は二つの効果を持つ。第一は、人々のリスク負担能力に従ったリスク配分がなされるため個々人の安全性（ヒューマンセキュリティ）を高める効果である。第二は、その結果として社会全体としてより大きなリスク負担が可能になるので、経済発展を促進する効果である。後者の観点からの研究は、世界銀行など国際機関や学会を中心に理論・制度・実証の各面から近年活発化している。

本稿ではその流れに従い、金融制度およびその深化が経済発展に及ぼす影響について、先行研究を批判的に検討する一方、多国データ（88カ国）を基にして一つの新しい視点から一連の計量経済学的分析を行った。その結果、①金融部門の全般的な深化は確かに経済発展をもたらす、②金融部門が深化する場合、それが銀行型金融または市場型金融のいずれか単独の深化であっても経済発展への効果が認められる、③ただしそうした金融深化の効果は経済全体の発展段階のいかんによって異なったものになる、④従って銀行部門あるいは市場部門のいずれを発展させるべきかは国ごとに異なる、などが判明した。これらの結果を踏まえると⑤銀行部門の深化が顕著な日本では今後市場型金融の深化（市場型間接金融への移行）が望ましい、と主張できる。

キーワード：

銀行型金融システム、市場型金融システム、市場型間接金融、金融深化、経済発展

【報告論文】

岡部光明・光安孝将「金融部門の深化と経済発展—多国データを用いた実証分析—」慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科、総合政策学ワーキングペーパーシリーズ第69号、全23ページ。<<http://coe21-policy.sfc.keio.ac.jp/ja/wp/WP69.pdf>>